

## 令和2年度教育事業 そに遊びの森

### 1. 目的・ねらい

新型コロナウイルス感染拡大の状況における子供たちの外遊び不足の課題に対応し、リフレッシュの場と機会を提供する。

### 2. 実施日

令和2年5月23日(土)、24日(日)、30日(土)、31日(日)、6月6日(土)、14日(日)、20日(土)、28日(日)

### 3. 対象者

年長児～小学6年生とその家族

### 5. 参加者 / 募集定員

①5/23(土)	6名/30名
②5/24(日)	19名/30名
③5/30(土)	26名/30名
④5/31(日)	18名/30名
⑤6/6(土)	22名/30名
⑥6/14(日)	6名/30名
⑦6/20(土)	13名/30名
⑧6/28(日)	15名/30名

### 6. プログラム(要約)

新型コロナウイルス感染症の拡大により、子どもたちの体験活動が少ない状況となっている。そこで安全を確保したうえで、自然環境の中で自分の意思で遊びを決めていく、「森の自由遊び」を中心に、プログラムを組み立てた。参加者どうしの交流はあまりせずに、家族単位で遊べるような環境を整えた。

具体的には、たき火遊び、スラックライン、フィールドアスレチック、雨天時には、なかよしホール(体育館)も解放した。

#### スケジュール

##### 主なスケジュール

10:00	現地集合 はじめの会(オリエンテーション) (各自昼食) たき火、薪割り、フィールドアスレチック、スラックラインなど選択できるようにし、各家族で自由に楽しめるようにした。
16:00	終了・解散

※参加者それぞれのペースを考慮し、全体プログラムは行わず、入退所も自由にした



### 7. 参加者の声

- ・思い切りたき火を楽しみました。子どもたちものびのび楽しそうでした。
- ・外へ出られない生活が続きましたので、曽爾の自然に癒されました。
- ・私も薪割りを久しぶりにしました。子どもだけでなく親にも良い時間でした。

### 8. まとめ

非常事態宣言で子どもを取り巻く状況が一変した中、体験活動の機会を確保するにはどのようにしたらよいか、安全を確保したうえでできることをふまえ企画した。場を開放し、機会を作る、最低限の取り組みとした。国立施設らしい提供の仕方だったのではないかと。多くの参加者が集まってよかったと思う。多くの方には届けるまでには至らなかったが、できる最大限の取り組みだったと思う。

(企画指導専門職 高瀬 宏樹)